

●国際ロータリーテーマ



SABAE ROTARY CLUB

●クラブ活動方針

2015. 7-2016. 6

塩梅よく

会長 小部 隆充
幹事 大橋 良史

●本日の例会

●R I 第2650地区スローガン 『クラブに「個性」と「憧れ」を!』

点 鐘 18:30~
四つのテスト
会長の時間
幹事報告等

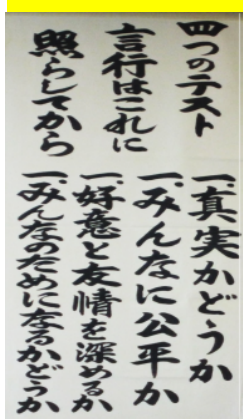
●第2728回 平成27年10月30日(金)

設立記念夜間移動例会

会場 天狗楼

▼第2727回例会報告 平成27年10月23日(金) ▼鯖江商工会館 3階中ホール 出席率 71.4%

四つのテスト



それでこそロータリー

佐野 直美 ソングリーダー



は、普通1.8%のところ1%しか入っていない。
銘柄の人気具合を見ていたが、どちらもすぐに無くなった。我々が持って行った地酒は、大正解だったと思い、帰ってきました。

幹事報告



大橋 良史 幹事

- ① 会長からもあったが、17日(土)のIM。多数のご参加、ありがとうございました。登録料の支払いが未だの方は、事務局、又は、例会時に会計までお願い申し上げます。
- ② 来週は、夜間移動例会。ちょうど設立記念日でもあり、親睦を深めるため夜間例会とした。会報に18時点鐘とあるのは誤り。18時30分：点鐘、場所：天狗楼、会費：5千円。詳細は後ほど配布する。時間を間違えないよう、よろしく願いたい。併せて、深くお詫び申し上げます。

会長の時間



本日のお客様は、鯖江市地方創生統括監の三上裕介様。千葉県出身。後ほど卓話をお願いします。(写真右)

先日のIM、多数ご参加願ってお礼申し上げます。一つの行事が終わり、ホッとしている。そのIMの前に、11時から会長会議があった。その内容を報告申し上げます。議題1は、次年度ホストクラブ決定。武生RCに決定。

同2は、国内外での災害発生時に対しクラブ単位の対応。福井フェニックスRCからの提案。結論は出なかった。

2016年3月18日(金)~21日(月)まで開催される、第28回全国RAC研修会と第13回アジア太平洋地域RAC会議の案内があった。RACに伝え、できるところは、協力していきたい。

IMは、全員登録が4RC。ホストの福井西・次年度の武生・昨年度の鯖江・福井南RC。

2つの基調講演からトークセッションまで、女性にこだわったプログラム。初めてだった。質問をいきなり振られてもテキパキと応え、見ていても気持ちよかった。

懇親会は、変わったところで、各クラブが各地の地酒を持ち寄り、楽しめるコーナーが設けられた。北クラブと相談し、当クラブは、梵の極秘造大吟醸。北は、同じく夢は正夢を持参。どちらも10,800円で、同価格だが、夢は正夢

ノルディックウォーク体験例会案内



木村 明 監査

再来週の例会をノルディックウォーク体験例会として、お願いしたい。
同ウォークは、距離スキーマの夏版のトレーニングから始まった。スキーマのポールを持って、ウォーキングする。
この度、福井県ノルディックウォーク協会ができて、私が会長を仰せつかった。
再来週、12:15 集合、12:30 ウォーク開始、食事は13時過ぎを予定。歩ける服装と運動靴。もし、天気が悪い場合は、11月第4例会時。詳細は、後日お知らせする。

ニコニコBOX報告



感謝し報告する 岡本圭子委員長

(敬称略・順不同)

- 1 窪田 健一
- 1 齋藤多久馬
- 1 岡本 圭子
- 2 野中 敏昭
- 3 園 幸雄
- 4 下村 義孝
- 4 牧野 友美
- 3 久しぶりに出席して
- 4 早退します
- 1 卓話に期待して
- 2 1・IMご苦勞様でした

卓話 鯖江市地方創生統括監 三上 裕介 様

テーマ 国の現状と「地方創生」について



平成21年に財務省(旧大蔵省)に入省。約6年仕事をし、今年7月13日に鯖江市に赴任。アベノミクスが目玉である、地方創生を担当することで鯖江市にやってきた。

そもそも、地方創生という取り組みを何で国が始めたのかという原点から話したい。最後に国の取り組みと、鯖江市で、今、何をやっているのか簡単に説明する。

1. 我が国の財政の現状

国の予算は、100兆円程度。歳出では「社会保障」「地方交付税交付金」「国債費」の3経費で全体の約7割。もう、あまり国の歳出に余力はない状況。

一方、この歳出を賄う税収等の収入は、歳出全体の6割程度。残り約4割は公債金。借金に依存しており、これは将来世代の負担となる。

100兆円の我が国の財政を月収30万円の家計に例えると、生活するために約49万円の費用がかかるため、毎年約19万円の借金をしている状況。ローン残高は、約4,900万円弱。いつか返さなくてはならないが、なかなか返せていない状況。

次に、我が国財政は、歳出が歳入を大きく上回る状況が続いている。債務残高は年々増加の一途。これを「ワニの口」と呼ぶ。将来世代に大きな負担を残すことになる。

平成27年度末時点の普通国債残高は、約807兆円。これは国民一人当たり約638万円の借金(4人家族の場合には、約2,550万円)。我が国の債務残高の水準は、歴史的・国際的にみても、最悪の水準。そこまでなった要因は、社会保障関係費の増加が要因。長期的に見ると、国債費と社会保障関係費の割合が一貫して増大。一方で、公共事業や教育、防衛等の政策的経費の割合は一貫して減少している。

2. 進行する少子高齢化について

我が国の総人口は、2008年をピークにすでに減少局面に突入。生産年齢人口(15~64歳)は、1995年をピークとして、総人口よりも早いペースで減少し、2060年には約51%まで低下する見込み。老年人口(65歳以上)の割合は、一貫して上昇し続け、2060年には約40%になる見込み。

何で、こういう状況になったかということ、「第3次ベビーブーム」が、発生しなかったことが大きな要因の一つ。

2020年代初頭には、「団塊の世代」が、後期高齢者(75歳以上)となり始める。急速に高齢化が進み、「1人の若者が1人の高齢者を支える」社会が訪れる。

支える側と支えられる側を比較すると、1965年は9人で1人を支える「胴上げ型」。今は2.2人で1人を支える「騎馬戦型」。2050年は1.2人で1人を支える「肩車型」となり、大変な負担が支え手の側に回ってることが予測される。

今、社会保障にかかるお金は、100兆円以上。10年後には、150兆円。社会保障給付は、高齢化により今後も急激な増加が見込まれる。特に1人当たりの医療・介護費用は年齢とともに急増する。持続可能な社会保障制度の確立が急務。

3. 地方創生に向けた取り組み

なぜ今、「地方創生」や「総合戦略」が必要なのか？

日本が『人口大変動期』を迎えたことが背景。「人口減少・地域多様化時代」が到来。このまま推移すれば、地方の多くが衰退・消滅しかねない。また、新たな社会経済変動に、従来の「政策体系」では、的確に対応できない。

『人口減少』を克服し、地方を創生させることが必要。「地方創生」は、いわば「日本創成」であり、新たな政策体系の確立であるといえる。

まち・ひと・しごと創生法のポイントは、地方にも「総合戦略」を課したこと。次の、4つの政策パッケージは、一つ一つ重要だが、同時並行でやっていくことが必要。

1. 地方のしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

今、鯖江市で取り組んでいる総合戦略は、2本立て。

1つは「地方版人口ビジョン」。人口の現状分析と将来展望を盛り込む。その人口展望を達成するのに取り組むものが、「地方版総合戦略」。基本目標(成果目標)とKPI(重要業績評価指標)という数値目標をたて、逐次検証して進捗を管理することが重要。総合戦略は作って終わりではない。むしろ、作ることでスタート地点に立つ。鯖江市は、10月中に策定して、公表する予定。

国は、何もしなければ、2060年に8千万人にまで減る人口を、将来的に、ある一定の水準で維持することを目指している。たまに、報道で1億という言葉が出るが、この数字になる。1億の人口を維持するのが、国の目標。



それに向けて各自治体も、同じように頑張ってもらいたい、という事を国が自治体をお願いしている。

4. 鯖江市の総合戦略について

鯖江市は、ずっと人口が増えている。恵まれているが、高齢化が進んで人口の約2割はお年寄り。

もう一つの問題は、20歳代後半のUターン率が大幅減少。女性のUターンが減り、20%を切る。出生率に響く状況。

鯖江市の人口は、平成27年10月に過去最高の69,037人で一番増えたが、景気が良く、周りの市が雇用を増やしているため。鯖江市としても、何とかしていく必要がある。

鯖江版の人口ビジョンは、何もしなかったら、2060年に51,700人と今より20%減となる見込みだが、出生率を上げることと、U・Iターンで若者の数を増やすこと、この2つの施策をやると60,096人となり、6万人維持できるとの目標を掲げている。その鯖江版の総合戦略を来週には取りまとめて、公表できる。

経緯として、4月に商工会議所の野村会頭に会長をお願いしている、鯖江市総合戦略推進会議を設置。来週に最終の第4回会議を開催して、最終案を決定。市長に答申後、それを鯖江市の総合戦略として、国や全国に公表する。

鯖江市総合戦略・コンセプトは、以下の通り。

～若者が住みたくなる・住み続けたくなるまち鯖江～

○ 鯖江市総合戦略の4本の基本目標

- 1 魅力ある雇用の創出(眼鏡技術を活かした新産業の創造・既存産業の高度化・若者に魅力ある働く場の確保等)
- 2 若者が住みたくなるまちの創造(若者の夢を応援するまち・ものづくり教育とふるさと学習の推進等)
- 3 若くて元気なまちの創造(安心して結婚・出産・子育てができるまち・学力と体力日本一のまち等)
- 4 安心して快適に暮らせるまちの創造(コンパクトシティの推進・どこにでも歩いて行ける交通網の整備等)

総合戦略だけでなく、まちづくりに関する鯖江市の方針をこの1・2年の間に、作る予定になっている。

